

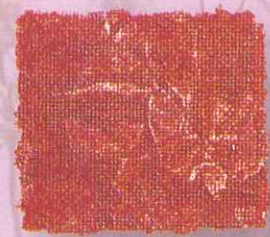
# 道守

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.15 秋号



特集 道と景観を考える

地域の道と景観のあり方を探る

道守の輪

道の日&道路ふれあい月間  
九州各地に“道”を守る声、広がる

交響の道を行く・新街道風景 ③

「山は阿蘇、道はやまなみ、湯は別府」  
九州横断道の夢 風景と人の交響、今も

巻頭随想

道草の道 岡部まり

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を選び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。  
さあ、新しい道に一步踏み出そう。



CONTENTS

- 01 巻頭随想 「道草の道」 岡部まり
- 02 特集 道と景観を考える 地域の道と景観のあり方を探る
- 05 道守の輪 道の日&道路ふれあい月間 九州各地に“道”を守る声、広がる
- 07 お知らせ 道守九州会議交流会 2007 「みちづくし in ふくおか」開催
- 08 わたしの好きな道 道が教えてくれた、人生の歩き方 工藤明美
- 09 私たちの道守活動
- 12 交響の道を行く・新街道風景③ 「山は阿蘇、道はやまなみ、湯は別府」 九州横断道の夢 風景と人の交響、今も
- 14 海外道事情【米国】 古き米国へといざなう田舎道 オールドキングスハイウェイ
- 15 ご存知ですか？ 今、ETCで高速道路がお得 「料金割引社会実験」実施中
- 16 道守たちのトピックス/人物伝
- 17 道守九州会議会員募集中・連絡先/お知らせ

表紙画：久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭  
随想

岡部まり

MARI OKABE



道草の道

私は「道草」派です。幼い頃から、大人になっただと教えられてきましたが、歩くものだと教えられてきましたが、

長崎の高校を卒業し、福岡の短大に在学中、モデルのアルバイトを始め、誘われて、FM福岡でDJと番組づくりも体験しました。思えばこれが、道草のはじまりだったかもしれません。上京して、30歳を過ぎたころでしようか、どうも!? 楽しいことは、王道ではなく脇道からやって来るものだと気づいたのです。他人が与えてくれた脇道への道草の方が、結果的にもしろくなることが多いのです。

その後、作家の村上龍さんとのコンビでテレビの仕事が始めるのですが、「探偵! ナイトスcoop」では、素人さんから寄せられたささいな問題を、芸人探偵さんが親身になって解決しています。依頼内容はともかく、まことにささやかでむしろ他人には、どうでもいような(失礼!)「内容が多いのです。これぞ正しく「道草番組」(笑)。でも、涙あり笑いあり。解決するたびに司会の西田敏行さんと一緒に笑いこけています。無駄なものを楽しむことで、心が豊かになるのです。

知らなかったことを知ると自信になるし、琴線に触れるものには、トコトコ歩いて自分で体験しています。そして、それを誰かに伝えたい! と強く思うのですが、いったん伝えてしまふと、すくっとさめてしまふんです。どうやら人に「伝えよう!」として沸き上がるエネルギーが好きなものでしょうね。

そんな私の道草を1冊の本「メディア・ド・マリ」(プラネット・ジ・アースより11月出版予定)にまとめて出版します。物事がどのように私の視線や琴線に触れてくるのかを、道草に関わる人、モノ、コトを取材して、きちんと社会に伝えてみたいと思ったのです。日々の暮らしの中で出会う、私にとって大事なことを、時間をかけて、こと細かに取材しています。読者にも大事なことであればいいですね。

道草の数だけ縁があります。5年前から琵琶湖周辺の道づくりに関わり、テレビ番組の司会もしているんですよ。これからは道草しながらいろいろな人たちに出会い、感動し、はげまされて、私の道を歩んでいきたいと思っています。

最後に、私の「道草を楽しむコツ」は、道草を食べ過ぎないことでしょうか。いつでもすぐに基本道に戻って、ごはんとみそ汁を食べられる「程」の道草が好きです。

プロフィール

1960年長崎県生まれ。タレント、エッセイスト。福岡女学院短期大学英語科卒。テレビ、ラジオのパライソナリテイ、イベントのコーディネーター、女優、映画評論など、幅広く活躍。



# 美しい景観、道の演出、競争力… 地域の道と景観のあり方を探る

道守九州会議の設立から4年目。道を舞台とする道守会員の活動、日本風景街道への取り組みは、地域の道づくり・景観づくりに大きな役割を果たしています。この夏、道と景観をテーマとするシンポジウムが福岡、大牟田、鹿児島で開かれました。地域における道のあり方を考えるためのヒントとして、その一部を紹介します。



## 道と景観・美しいニッポンをデザインする講演会 ”引き算の美”から 美しい景観づくり

コシノ氏

景観づくりをファッショ

ンデザインからの観点から考える「道と景観・美しいニッポンをデザインする講演会」が7月27日、福岡市・天神で開かれ、約200人が参加した。コシノジュンコ氏による講演「ファッショと景観の創造」とトークセッション「美しい景観・ニッポンをデザインする」から、日本風景街道戦略会議のメンバーも務めるコシノ氏の、景観づくりへの独自の視点が示された。

講演

ファッショと景観の創造  
コシノジュンコ氏  
(ファッションデザイナー)

デザインの基本は整理することです。日本の道路では広告看板などの規制もなく、さまざまな色

が使われていて一貫性がない。パ

リの高級ブランドが並ぶアベニュー・モンテニューでは、テントや看板のメッセージには使わず、ブランド名はロゴではなくフルネーム表記です。ファッショとはライフスタイルや町並みの美しさにも通じること。今や日本は車社会といえますが、歩くことで美しい景観が見えてくるのでは。日本にもちよつとした工夫で美しさや和やかさを醸し出している通りや道があります。自分の国、町だということを忘れずに、歩きたくなくなる町並みにしようという意識を持つていきたいですね。

コシノジュンコ

大阪生まれ。文化服装学院デザイン科卒業。同校在学中に装苑賞を受賞。1978年パリコレクションに初参加。85年中国・北京、90年米ニューヨーク、94年ベトナムハノイ、96年キューバなどでショーを開くほか北京の中国歴史革命博物館でデザイン展を開催。2006年には「イタリア連帯の星」カヴァリエールを受勲。オメガやミュージカルの舞台衣装からスポーツシューズ、インテリアデザインまで幅広い分野で活躍中。

”引き算の美”で景観づくり

玉川 コシノさんは、景観づくりにも日本独特の”引き算の美”が必要だとおっしゃっていますね。日本の道路の広告看板はそういう観点ではいかがでしょうか。

コシノ 日本の看板やのぼりは異常ですね。それとまだまだ電柱と電線が目立ちます。それらを取り外すだけで、随分すっきり美しい風景になると思います。

中村 引き算の美学という意味では、福岡の都市高速道路の百道付近を一部地下に埋めたのが素晴らしい。街と海の雰囲気壊していないです。街と海の雰囲気を壊していないです。さらに都市景観を

考える上では川が重要。川と都市の間には堤防がない、あるいは低い場合、美しい遊歩道を作ることができます。福岡市はそれが可能です。

玉川 都市景観に対する市民意識を高めていくためには、歩く「人

## 道守がごしま会議 道守&風景街道シンポ 地域資源、人の温かさ、広域ルート… 豊かな道の演出方法を探れ

## 玉川氏



4地区の演出方法を探ったシンポジウム

基調講演には、日本風景街道戦略会議の委員を務める玉川孝道氏が登壇。

かつての観光地の盛衰、団体行動から個人の趣味中心への旅行スタイルの変化など、国内外の事例を挙げ「道は、造る時代から、使う、生かす時代になった。今ある豊かな道をどのように演出するかが、日本風景街道の醍醐味」と

強調。

また、九州の他のモデルルートの取り組み状況などを紹介し、「いかに都市部から人を呼べるかがカギ。風景、歴史、文化、食など素晴らしい資源を備えた鹿児島でも官と民が一緒に汗をかき、風景街道づくりに努めてほしい」と訴えた。

シンポジウムには、「錦江湾あつたまる」とに携わる4地区の代表者らが出席。街の入り口にある看板広告の撤去、食をテーマにしたおもてなし、海岸の景観、「まの駅」を活用した事例が報告され、今後の活動について意見交換。



玉川委員の基調講演

「人の温かさは地域一番の宝。風景街道づくりに生かすべき」霧島から奄美大島、種子島、屋久島までを含めた広域ルートづくりも必要では」などの意見があがった。

▼シンポジスト…福岡大輔(桜島ブロック長)、松元潤平(鹿児島ブロック長)、今林重夫(指宿ブロック長)、下津公二郎(南薩ブロック長)▼コメンテーター…玉川孝道▼コーディネーター…中村朋美(アナウンサー)※敬称略

## シンポジウム「話そう大牟田」 特色ある地域発展を 有明海沿岸道路活用し、 競争力高めて

大石氏

福岡県大牟田市で7月8日、有明海沿岸と大牟田市の地域再生策を考えるシンポジウム「話そう大牟田」が開かれた。基調講演した日本風景街道戦略会議委員の大石久和氏(国土技術研究センター理事長)は、「どう描く地域のグ

ランドデザイン」と題し、来春一部開通する有明海沿岸道路を活用した地域活性化策などを述べた。基調講演 どう描く 地域のランドデザイン(要旨) 私たちの地域はどのように変わ

# 景観

ろうとしているのか。 どういう役割を果たそうとしているのか。 どういうインフラがそれを応援するのか。 こうしたものを書く国土形成計画を初めて定める年になった。



基調講演する 大石久和氏

以前の全国総合開発計画時代には考えられなかったことが起きている。人口減少と少子高齢化、経済の停滞と財政制約、それに東アジアの経済的台頭だ。こうした時代の要請に対応した新たな国土計画が必要になった。

計画の考え方の一つが、競争力のある地域が集まって競争力ある日本をつくるということ。福岡県が日本の競争力を高めるのに貢献しなければならぬし、有明圏域は福岡県が競争できる状態になるよう貢献しなければならぬ。 それに向け(来春一部開通予定の)有明海沿岸道路をどう生かすか。まず長崎自動車道や九州自動車道と、どのように結び付くかが非常に大事になる。また、一般的に工場立地は高速道路のインター

チェンジ周辺に集まっているが、交通条件の改善を企業立地の促進に結び付けてほしい。 今後は、福岡県太宰府市から有明海沿岸地域をぐるりと周遊しても3時間で回れるエリアになる。 大変便利なエリアになるということは、人を吸収できる能力を身に付けることだが、逆に吸収される機会も増えるということだ。 この地域が持つ生産性や気候風土、技術力を生かす工夫をして、特色ある地域発展を遂げてもらいたい。



活発な意見交換が交わされた

の道」が大切だとコシノさんは話されました。 鈴木 パリのアベニュー・モンテニューの広告のルールはとても成熟している。日本でも景観を損なわない良心と美意識を持てると思います。 西洋の合理性に日本の伝統的な考え方を取り入れられれば素晴らしいですね。 ▼パネリスト…コシノジュンコ、鈴木弘之(写真家)、中村良夫(東京工業大学名誉教授)▼コーディネーター…玉川孝道(西日本新聞社特別顧問)※敬称略



# 道守の輪

## 道の日&道路ふれあい月間

### 九州各地に”道“を守る声、広がる

#### 一斉清掃、道イベント、パネル展… 道守が多彩に活躍

8月は「道路ふれあい月間」、そして8月10日は「道の日」。今年の夏も、道守九州会議に参加するたくさんの方々の道守たちが、各地域の行政や市民と連携し、道を舞台に多彩な道守活動を行った。

#### ■道守ふくおか会議

##### 久留米、福岡で 「道」「橋」イベント 前原市で道守一斉清掃

8月5日、久留米市で「道の日フェスタ2007」が開かれた。道路ボランティアへ功績があったとして「ごみゼロ青春探検隊まえばる」(呼びかけ人 酒井忠彬氏)に、国土交通大臣表彰の感謝状がこの日、ステージで手



「ごみゼロ青春探検隊まえばる」の表彰  
福岡市の道守会員らが参加する毎年恒例の「名島橋サンクスフェア2007」は、台風のため8月24日に延期して開催。飲み物のプレゼントや餅まき、オールデイーズヒットパレード、福岡の道パネル展などが行われ、約2500人が足を運んだ。

渡された。また久留米岩田屋本館では、道路絵画コンクールと道の日フットコンテストの優秀作品を展示し、多くの人が来場した。

#### 前原市では8月22日、「まえばる(ごみゼロ青春探検隊まえばる)・マックスバリュ周船寺西店ボランティア・サポート・プログラム(VSP)」

が福岡国道事務所と合同で、道路ふれあい月間にちなんだ国道202号の道路清掃活動を実施。約30人で15袋分のゴミを回収した。



前原市の国道202号清掃の参加者



名島橋サンクスフェアの景品付き餅まき

#### ■道守大分会議

##### ”楽しい道“ 絵画&道守パネル展 別大国道清掃に80人

8月22日から26日の5日間、道守大分会議や国、県、市の行政機関などからなる「道の日」行事実行委員会主催の絵画展を、大分市の文化施設コンパルホールで開催した。みんなが通る楽しい道“をテーマに大分市内の小学生らの総数468点の絵画を展示。多数の来場者で賑わった。あわせて道守紹介パネルも26枚掲示し、道守活動をPRした。



絵画展と同時開催された道守パネル展

また9月8日に「第4回別大マイツリー活動」を実施。マイツリー会



員や大分河川国道事務所の職員ら約80人が、3年前に各々が想いをこめて植えた「マイツリー」の成長を見ながら、別大国道(大分市と別府市を結ぶ国道10号)を1時間かけて清掃した。清掃後は、高崎山の「おさる館」で意見交換会。清掃活動と植木の成長を通してお互いを確かめ合う、地域コミュニケーションの場となった。

#### ■道守くまもと会議

##### 毎年好評「道の日カレー」 恒例の県下一斉清掃に 2965人

道守くまもと会議などが企画し、一昨年から毎回好評の「道の日カレー」は全37種類にパワーアップ。県内の道の駅、高速道路のPA・SAで8月中に販売。地元旬の素材を使ったカレーを味わいながら、道への関心を高めてもらうきっかけとなった。



道の駅七城メロンドームの道の日カレー



熱気に包まれた道の日くまもとフェア



熊本県下一斉清掃の参加者

早朝7時から恒例の「熊本県下一斉清掃」を実施。炎天下にもかかわらず、県下114カ所ですべて119団体2965名と、参加者は昨年より約500人も上回った。同日午後は、熊本市内で「道の日くまもとフェア」を開催。道の絵コンクール、道の俳句・川柳の入賞者や道路功労者の表彰式、子ども道守隊入隊式、道守のパネル展示などが行われ、素晴らしい作品や活動が紹介された。会場は

来場者全員が入りきれないほどの盛況ぶり。子どもたちの笑顔があふれるイベントとなった。

#### ■道守長崎会議

##### 国道34号で道の日清掃 ”うちわ“と”花の種“で 道路愛護

「道の日」の8月10日、道路の美化・清掃に顕著な功績があった団体として「潮見小学校区町内会連絡会」(藤



長崎県庁前広場で行われた表彰式

田孝徳代表)に、星隈順一・長崎河川国道事務所長から感謝状が手渡された。同団体は国道35号佐世保市潮見町から佐世保駅付近を対象に、花の植え付けや小学生の体験ボランティアなど多彩な道守活動に取り組んでいる。

また県庁前から市役所前までの国道34号で、道守長崎会議のメンバーと国交省職員による清掃活動を実施。強い日差しの中、参加者20人がゴミ拾いに汗を流した。



国道34号の道の日清掃活動

市中心部の繁華街「浜の町アーケード」では、道路ふれあい月間をPR。道路愛護の気持ちを込めた「うちわ」と「花の種」を、約20人で買い物客へ手渡した。当日は暑かったこともあり、道行く人々に喜ばれた。



浜の町アーケードの広報活動参加者



道に関わる人々が一堂に

# 道守九州会議交流会 2007 「みちづくしinふくおか」開催

12月8日、9日の2日間、福岡市の福岡国際会議場で、道守九州会議交流会2007「みちづくしinふくおか」を開催します。道守九州会議交流会は、2004年の熊本市での初開催から今年で4回目。九州各地で“道”をテーマにした活動に携わる個人、ボランティア団体、NPO、企業、行政関係者などが一堂に集い、語り、考えます。今回は「福岡自動車博覧会」(12月7～10日)が開催中でもあり、「～Nice to 道遊(meet you)～ in ふくおか」を合い言葉に、道守活動を広くアピールする絶好の機会となりそうです。8日は、基調講演や全体会、分科会、交流集会などを予定。9日は学習会として「風景街道シンポジウム」を開催します。参加者募集などの詳細については随時、道守ホームページなどでお知らせしていきます。多くの道守会員の方々の参加をお待ちしています。

12月8日(土)	福岡国際会議場 5F
	13:00開始
12月9日(日)	福岡国際会議場 5F
	10:00～16:30
	● オープニングセレモニー
	● 基調講演
	● 全体会・分科会
	● 交流集会
	● 学習会「風景街道シンポジウム」

主催：道守九州会議、道守ふくおか会議 共催：福岡自動車博覧会実行委員会



**実行委員会開催  
みちづくしに向け  
白熱した議論**

「みちづくしinふくおか」の開催に向けて、実行委員会(第1回・7月19日、第2回・8月30日)が福岡市内で開かれた。道守ふくおか会議のメンバーや福岡市のまちづくり団体、行政関係者らが出席。運営方針や企画などについて話し合いが行われた。12月の「福岡自動車博覧会」期間中の開催もあり、

道守のスタンスのあり方や道路空間のとりえ方について白熱した議論が行われた。「人」と「車」と「道」、そして「共存」といったキーワードをもとに企画を進めていくことで合意。チラシやポスターの検討を行い、決意を新たにした。



第2回実行委員会の様子

## 道守みやざき会議 道の絵画コンクールに 過去最多2969点



道をテーマにした絵画展示

道守みやざき会議では、宮崎市内の小学生を対象に「道」をテーマにした絵画コンクール、ラジオ放送特別番組「道の日スペシャル」などを実施した。

絵画コンクールは平成5年度からの取り組みで、今年は過去最多の28校・2969点の応募があった。宮崎県立美術館と宮崎道路ふれあい月間実行委員会で審査し、計50点が入賞。8月9日、イオン宮崎ショッピングセンターで表彰式を行い、受賞者や保護者ら約150人がかけつけた。作品は道路ふれあい月間中、イオン宮崎やJR宮崎駅などに展示し、多くの人が足を止めた。



道守のぼりを立て、清掃する参加者

## 道守かごしま会議 県下一斉清掃 のぼり立て、道守P.R

道守かごしま会議では、「みち」をきれいにすることが、「まち」も「心」もきれいにすることにつながるといふ思いから、8月10日を「道守一斉清掃の日」と決定。県内の道守団体や個人およそ50人が、各々の活動場所や共通の「のぼり」を立てて、道沿いの清掃や道守P.Rに汗を流した。また8月23日には道守かごしま会議座談会(3頁に詳細)を開催し、広報活動に努めた。

会メンバーのスタジオ出演、同日開催された「道守シンポジウムinのべおか」(9頁に詳細)の中継車P.R、道の駅の紹介、リスナーの「道」の思いの紹介と、さまざまな企画で道路愛護の機運を高めた。

## 道守みやざき会議と おおすすめ分科会が 交流会

道守みやざき会議(南部ブロック会議)と道守かごしま会議おすすめ分科会の交流会を7月19日に開催。30名(宮崎11人、鹿児島19人)で現地視察を行った。

第1視察地の都井岬(串間市)では、岬の清掃管理や岬馬の生育・保護活動を見学。日南市では、観光客に休憩場所を提供する個人店舗「しゃべり場」(油津)、幸運を呼ぶ「ツマベニチョウ」の養育場(鶴戸)を回った。



鶴戸神宮では両会議の意見交換会を行い、日本風景街道「日南海岸きらめきライン」の取り組みなどを紹介した。おすすめ分科会の参加者からは「風景街道は初めて聞いたが、宮崎の活動でどんな取り組みか少し分かった」という声があった。

## 浴衣で打ち水

通りを涼しく  
浴衣で打ち水  
通りに水をまいて涼を得る「打ち水」の体験イベントが、今年も九州各地で行われた。カラフルな浴衣姿の若者たちが、川や風呂の残り水などを持ち寄り、ひしゃくなどで元気よく水をまいて、ひとときの涼しさを味わった。



小倉

福岡

鹿児島

前原



小野泉水公園に移転・復元された正院眼鏡橋



里山ウイングの杜内の散策路「スイセンロード」



小野の泉水周辺散策道

# わたしの好きな道 道が教えてくれた人生の歩き方

小野泉水公園の道 (熊本県鹿本郡植木町)

日本一のスイカの名産地を誇る熊本県鹿本郡植木町。その中心部から国道3号と国道208号の2つに分かれる。そこから北上し、植木町役場前を東へ約2.5km進んだところに、私の好きな小野泉水公園の道がある。「花の色はうつりにけりないたずらにわが身世にふるながめせしまに」小野泉水公園は、平安時代の女流歌人、また絶世の美女として名高い、小野小町の生誕地として知られている。伝説によると、出羽郡司(郡の政務にあたった地方官)であった父・小野良美が、養父の犯した罪でこの地へ流罪となる。その次女である小町は、この泉水を産湯に使ったと言ひ伝えられている。

巨大な鯉が泳ぐ泉水の道を右に歩くと、正院眼鏡橋がある。安政3年(1856)に近くの正院川に架橋されたが、河川改修で昭和51年(1976)に小野泉水公園に移転、復元された。車道から眺めるとおつなものである。公園に連なる里山も魅力である。里山へは、七国神社の階段を上がる道と、国道3号からJA植木基幹所の前を通り、泗水方面に向かう道のり約1.5kmの2つの道がある。

里山には「鬼のいわや」という小さな古墳がある。しかし、周辺のみかん畑跡地の丘陵地は放置され、雑草だらけになっていた。私たちは泉水の清流を再生するために、近くの山東小の子供たちと植林を行った。「未来に残す緑の財産は、水の涵養と地球温暖化防止に役立つ」と信じて立ち上げたこの企画は、熊本県の「平成15年度地域の夢大賞」を受賞。私たちは、この場所を「ウイングの杜」と命名した。

私は、植木町に住んで14年目になる。30歳前後に生死をさまよう大病を経験した。それ以来「人に尽くす道を」と人生を歩いてきた。さまざまな困難に対して、勇気を出して行動できたことで、強い自分になったと思う。何よりも地域の方々の協力が得られ、感謝の気持ちでいっぱい。道守くまもと会議との出会いは、さらに人間としての器を大きくしてくれている。道が教えてくれた、素敵な人生の道の歩き方をこれからも堪能したい。そうすれば、小野小町に負けない心の美人にはなれるかも…。



## プロフィール

### 工藤明美

熊本県鹿本郡植木町在住。保健、看護、福祉の非常勤講師。火の国ネットワーク小町ウイング代表。植木町環境情報会議委員、植木町まちづくり委員、道守くまもと会議会員。



# 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

## 宮崎 道守みやざき会議 地域の報告

「県北みちもり」新たに発足  
道守シンポ、道守の日で広がる活動の輪

道守みやざき会議(日高晃代表世話人)は発足4年目を迎え、参加会員は6172人(8月末現在)となりました。この夏新たに「県北みちもり」が発足。道守活動の普及と会員の拡大を目的として毎年開催する「道守シンポジウム」を県北地域で初開催しました。

## 宮崎県北ブロック発足 清掃・植栽の159人が 新たに道守会員へ

「道の日」の8月10日、道守みやざき会議の県北ブロック(矢野初美代表、通称・県北みちもり)が宮崎県央ブロック、宮崎県南ブロックに続き、新たに発足しました。

延岡市で行われた「県北みちもり」発足会  
「郷土を愛し、慈しみ、少なれば」という想いで日々、道の清掃や植栽の手入れなどに汗を流し

## 県北地域で初開催 「道守シンポジウム inのべおか」

「県北みちもり」の発足を記念して同日、県北地域で「道守シンポジウムinのべおか」を初開催。道守会員や市民ら約150人が参加しました。



地元小学生による道守体験発表

シンポジウムは地元の子供たちによる道守体験発表を皮切りに、森将彦・道守九州会議副代表世話人の基調講演、パネルディスカッション、道守拡大宣言が行われ、東国原県知事からの応援ビデオレターも披露。さらなる発展を願い、地元の北川町黒内地区の方々による手作りの餅まきで、幕を閉じました。

また道守みやざき会議では、10月の第3日曜日を「道守の日」と制定し、県内一斉活動を実施しています。シンポ終了後には「ぜひ参加したい」という市民からの嬉しい声もあがりましました。



餅まきで道守の発展を願う参加者

## 宮崎県

### 南郷商工会女性部

### 恩返し of 思いで美化運動 世代を超える女性の気配り



私たちは、東臼杵郡美郷町(旧南郷村)で地域への恩返しという思いで、空き缶拾いなどの郷土美化運動に取り組んできました。現任部員27人。設立した昭和56年当時は46人と部員数が多く、積極的な活動ができていました。いまでは世代交代を重ね、「花いっぱい運動」の形で継続されています。美郷町「百済の里」の玄関に、何か象徴するものを設置しようと、日向市と美郷町を結ぶ国道446号沿いに、商工会青年部が丹精込めて作ったチャナソン像を設置。周辺を花壇にして女性部が管理しています。

花植えは年2回、草取りや周辺の清掃を年数回実施。私たちの生活を守る道をいつまでもきれいに利用してもらうため、活動を継続することが今後の目標です。女性ならではの気配りを生かし、沿道の花いっぱいにして、癒やしの空間をつくれるようにしていきたいと思ひます。(松村嘉代子)





やる気塾

歩道美化中心に幅広く活動  
沿線住民への推進に一役



築上郡築城町を住みやすい町にするため、塾生が自らボランティアとして行動するまちづくりグループです。2003年4月に塾生7人で発足。活動は町の美化、自然環境の保護、心の健康づく

りなど、幅広く取り組んでいます。

2003年、県道58号バイパスの開通に併せて「福岡県さわやか道路美化促進事業」認定団体に。県道58号および237号担当区域の歩道美化作業を夏季は月2回、ほかは毎月1回続けています。毎回2時間、刈り払い機で雑草除去、空き缶・ペットボトルなどのゴミ収集と廃棄作業を行います。

今年8月には県道58号のイブキ70本を間伐せん定。初めて散髪したイブキは美景になると期待しています。道路沿線の町内会や住民は、自主的に除草やゴミ拾いをやってくれるようになり、うれしい限りです。活動が地域に定着するようこれからも健康第一で続けます。(木部義寿)



高田電機株式会社

会社周辺の道路清掃25年  
地元道守と橋の美化も



私たちは、毎朝始業前に会社出入口の周辺道路清掃を20人ほどで行っています。毎月月初めを近隣清掃の日と定め、会社周辺の生活道路・カーブミラーなどの清掃を25年間継続。

5年前からは、8月4日を「橋の日」として地元の橋本建設さんと協力して唐津城下の舞鶴橋・城内橋などの清掃を実施。観光客たちに、少しでも良い思い出をつくっていただければと思っています。

このような活動がドライバーや歩行者の目を引くようになったのか、以前はたばこの吸殻などが多く落ちていましたが、最近では空き缶・ペットボトルやたばこのポイ捨てなどが減ってきたように感じます。これからも自分たちが利用する道路をきれいにしていくことで地域の美化に貢献できればと思っています。(仲尾幸雄)



NPO法人自立支援センターおおいた

車いすやアイマスクで道調査  
住みやすい「大分の町」目指す



平成13年設立。会員19人。誰もが安心して暮らせるまちづくりをコンセプトに、「グレートバリアフリー探検(5月)」や「ユニバーサルデザインによるまちづくりワークショップ(7、10、12月)」を県内各地で開催。車いす体験や高齢者、妊婦、視覚障がい者の疑似体験を通して、駅や公園、観光施設などの公

共施設や、そこまでの「道」を調査しています。車いすに乗った状態での道は凹凸だったり、アイマスクと白杖で周囲が見えず、道の感覚を足で確かめたりと、ハード面の改善だけではなく、支え合いの気持ちである「心のユニバーサルデザイン」についても、多くの考えや新しい気づきを持ち、道をより身近に感じる良い機会となっています。

今後も、行政やNPO、ボランティア団体を含めた一般の方々との連携を深め、誰もが安心して訪れ、住みやすい「大分の町」を目指していきます。(河野龍也)



NPO法人熊本ホスピタリティネットワーク

ペロタクシーに乗って  
道でコミュニティづくりを



人間の生活環境の回復を目指し、2006年4月に学生と地域住民約40人で発足。「3つのC」やささC、たのC、ペロタクC」をコンセプトに、熊本市中心部で環境に優しい自転車のタクシー「ペロタクシー(2人乗り)」を運行することで、熊本の町を楽しく元気にしたいという思いで活動しています。

今年8月からは、市街地にある市営幸島公園地下駐車場に駐車すると、ペロタクシーに一人100円(通常は初乗り一人300円)で乗れるという「パーク&ペロ」の取り組みも始めました。(来年3月31日まで)

道は使い方次第で美しくも汚くも、そして便利にも不便にもなります。車から降りてゆつくりと利用してもらおうことで、道をコミュニティケーションの場としても活用してもらいたいと思っています。(草野泰宏)



NPO法人ながさきクリーンマネジメント

道路、河川の清掃続け6年  
啓蒙や情報交換で地域交流



2001年3月NPO法人を取得。会員10人で今年6年目を迎えます。同8月に長崎県河川愛護団体登録、2003年5月「ボランティア長崎」を国土交通省長崎河川国道事務所大

村維持出張所にて協定書を締結。環境保全の一環として、基本的取り組みの中で河川美化活動(東彼杵町二級河川)や清掃活動である「ボランティア・サポート」を大村市中里町鈴田峠パークキング内および道路周辺で展開。紙くずやたばこの吸い殻、空き缶、空き瓶、プラスチック、ビニール袋などの散乱物回収除去、清掃などを仲間とともに続けています。

清掃活動は、地域においても多くの活動参加を呼びかけています。また、環境保全にかかわる啓蒙および情報交換を不定期ではありますが、実地区域で年間3回から4回実施。今後も、河川、道路里親団体活動を拠点として取り組んでいきます。(二瀬規文)



ボランティア企画・生活ニーズ

「道の日」清掃に初参加  
沿道花壇も視野に



私たちは高齢者の生活補助や独自に作った野菜を配ったりと幅広く活動する団体です。「やさしい環境、命にやさしいまちづくり」をモットーに道路清掃のほか、観光地や海岸などの美化活動も行っています。そこで、8月10日の「道の日」に「道守かごしま会議 県下一斉清掃」に初めて2人で参加しました。場所は鹿児島市伊敷町から永吉町までの約5km。2人だけの清掃でしたが、2時間半かけてゴミ3袋分を回収。また、1週間後の17日にも県道206号沿いを清掃しました。生活ゴミが大半であったため、後日、鹿児島市長に看板などを立ててはどうだろうかという要望を提出。すると、すぐに受け入れられ、いまでは啓発看板が立っています。

道路脇に花壇などがあれば、ゴミも減少するのではと考えています。今後は、九州風景街道と協力しながら、きれいな道路づくりを目指します。(吉村忠則)



9 由布岳と由布院温泉



●不夜城といわれた流川通り

### 多彩な先人・観光資源、 そして現役たち

一方、やまなみハイウェイの起点・別府は、陸路・空路交通網の発達で九州の玄関機能を失い、往時のにぎわいも消えた。取り残されたゆえに繁栄の遺産が数多く残る。かつて不夜城と言われた中心街・流川通りの松下金物店は、昭和4年に建った木造西洋建築、外壁のスクラッチタイルが美しい。店主の松下好孝さんは「時折、研究者が見学に来られるので」と店を守り続ける。

「地元の人参加して驚くんですよ」と言うのは別府八湯・竹瓦倶楽部の代表世話人、元郵便局長の河村建一さん。竹瓦界隈路地裏散歩をボランティアで始めて8年目。ポスターやパンフレット、各種提案書は私財で手作りした。「まず住民が先頭に」と別府と縁深い大阪や阿蘇・一の宮の人々と交流しながら新しい別府を探る。ポスターの言葉は「山は阿蘇、道はやまなみ、湯は別府」―温故知新、熊八流と横断道の夢が息づいている。



●河村代表世話人

やまなみ横断道の県境辺り、熊本県南小国町瀬の本は道も水も四方に伸びる交差点。北に下れば黒川温泉、南は久住を経て豊後街道、竹田へ。平成6年、やまなみ道が無料化されると車とごみが増え、観光業者組織が清掃ボランティアに取り組んでいる。メンバーで、自家野菜の料理を出す「八菜家」主人・井農夫弥さんは「地産地消で農業を守りたいし観光客も楽しんでほしい。人の行き来でそれが可能」という。やまなみ道を脇に入れば多くの温泉や登山口、

## 交響の道を行く 新街道風景③

「山は阿蘇、道はやまなみ、湯は別府」

# 九州横断道の夢

# 風景と人の交響、今も

道の清掃や植栽、歴史や文化の継承が醸し出す、美しい道の風景。さまざまな地域資源が響き合う新しい街道風景を紹介します。

彼の事業は奇抜、アメリカ流でスケール大。例えば、地獄めぐり観光バスと日本初のバスガイド導入。その戦略は三つ。①寝具と食料②ホスピタリティの率先③乗り物―どれも一流。「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」を掲げ、実際に富士山頂に看板まで建てた。

### 由布院の原風景、横断道から誕生

熊八の乗り物好き・交通重視は、観光バス、関西航路拡大へとつながった。内陸版が昭和2年の「九州大国立公園実現提唱」であり、核心が別府・阿蘇横断道路。



●昭和10年ころの金鱗湖

熊八がルート上で手掛けた事業が由布院・亀の井別荘。金鱗湖一帯6千坪を購入、国内外の要人を泊める別荘をつくり、加賀の道楽人・中谷巳次郎が運営した。これが今をときめく由布院の原風景である。別荘の主はいま3代目、中谷健太郎さん。元は東宝映画の助監督、雪の研究で岩波映画社をつくった中谷吉郎の甥。そんな縁が「映画館のない町で映画祭」など奇想天外に由布院をプロデュースし続ける。どこか胆力や手法が熊八流。とまれ、由布院は「横断道の夢」の申し子だ。通りや路地路地は、やまなみ横断道随一のシーニックハイウェイ・見ごたえある脇道であり、観光客が日々溢れている。

秋になってもキャンピングカーが集う。最近のヒットは九重「夢」大吊り橋。沿道の風景・自然・歴史・文化を楽しむ、沿線住民と来訪者が一緒に―と、日本風景街道の指定に向け人々が動く。晩年を別府で過ごした大冒険家、大谷光瑞（浄土真宗本願寺派22世宗主）は昭和22年、「別府観光都市建設私案」も残している。いわく、阿蘇と結べ、人々が道普請を、と。別府と阿蘇を結ぶ風景街道は多くの先人たちにも恵まれている。



●水流も四方に伸びる瀬の本高原

### 道に住まう人々。

#### ゆふいん湯の坪街道デザイン会議 生活型観光地の景観づくり 風景街道通して交流も

由布院湯の坪地区の生活環境を考え、建物だけでなく看板や河川、樹木も含めた景観づくりに取り組んでいます。



今年からは、実際に看板や建物の計測を開始。事務局長の池邊秀樹さん特に、日本風景街道をきっかけとして地区沿道の看板のあり方を模索し、やまなみハイウェイ沿線の皆さんと看板建築について交流していきたいと思っています。景観は地域住民にとっても大切です。地域住民が安心して暮らせ、生活と観光がバランスよく存在する地域を目指しています。

### 阿蘇くじゅう・やまなみ シーニックハイウェイ

九州横断道路「やまなみハイウェイ」や国道57号が熊本市から阿蘇、九重の山岳地域と、由布院、別府の温泉地域を結ぶ。



駐車場と撮影スポットがセットになったフォトスポット&パーキング(とるば)のマークです。



8 別府の湯けむり風景



7 現在の流川通り



6 別府湾SAからの眺め



5 にぎわう由布院



3 キャンパーが集う久住山の麓



2 参勤交代道松並木



1 11月の紅葉がみどころの岡城址



30%割引

# 今、ETCで高速道路がお得 「料金割引社会実験」実施中

高速道路を有効活用し、一般道の渋滞等の課題を解消・緩和することを目的に、ETC車を対象とした高速料金割引社会実験が行われています。さらに使いやすくなった高速道路を、ぜひご利用ください。

## 30%OFFのETC平日割引 九州地域8ブロックで実施

高速道路では現在ETC車を対象に、通勤割引(6~9時、17~20時/50%割引)や深夜割引(0~4時/30%割引)が実施されています。更に今、九州(一部中国地域を含む)の8ブロックで、高速道路料金が30%割引となる「ETC料金割引社会実験」を実施中です。

※実験の終了時期はホームページなどで改めてお知らせします。

割引適用条件(以下の3つの条件を全て満たしてください)

ETC限定	ETC車限定の割引です。入口ICをETC無線走行してください。
対象区間 100km以内限定	右図の各割引対象区間のICを出入りした場合のみ割引が適用されます。但し、割引対象となる走行距離は100km以内の走行に限ります。[各割引対象区間以外で出入りした場合は割引対象外です。]
対象時間・ 曜日限定	月~金(祝日除く)に入口IC又は出口ICのいずれかを各対象時間の間に通過してください。

### ETC平日9時~17時割引

- ① 下関IC~門司港IC ② 太宰府IC~八女IC(鳥栖IC含む)

### ETC平日15時~17時割引

- ① 埴生IC~八女IC、甘木IC~武雄北方IC、北九州JCT~苅田北九州空港IC
- ② 東そのぎIC~長崎IC ③ 植木IC~八代IC
- ④ 速見IC~津久見IC ⑤ 西部IC~清武JCT、都城IC~宮崎IC
- ⑥ 清辺鹿兒島空港IC~鹿兒島IC

### ● 割引に関する注意事項等について

詳しくはNEXCO西日本社会実験専用ホームページまで <http://www.jikken-etc.jp/>

社会実験全般に関する問い合わせ先 ●九州地方整備局 道路部 道路計画第一課 TEL.092-476-3529(直通)

高速道路の通行料金に関するお問い合わせ先 ●NEXCO西日本ハイウェイガイド TEL.0570-080333  
●IP電話・PHSのお客様はこちらへ TEL.06-6876-9022

### ● 道路についてのご意見・ご相談を受け付けています

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 FAX 092-476-3514 [24時間 毎日受付]  
E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp HP <http://www.qsr.mlit.go.jp>



# 海外道事情



アメリカ合衆国(通称 米国): 1965年に「道路美化法」、1989年に地域資源の概念を盛り込んだ「シーニックバイウェイ法」が成立。観光や地域活性化を目的とした道路活用の先進国でもある。

マサチューセッツ州: 州の南東部端はケープコッドと呼ばれる大きな砂質の半島。マサチューセッツ湾、ケープコッド湾など複数の大きな湾を持つためにBay State(湾の州)として知られている。

歴史を感じさせる沿道の風景。

築120年以上の建物。宿泊施設として使われている。



## 古き米国へといざなう田舎道 オールドキングスハイウェイ

ケープコッドは、米国マサチューセッツ州南東に突き出た半島である。東海岸有数の避暑地であり、悲劇の大統領ドワイト・D・アイゼンハワーが愛した場所としても知られている。この半島北岸に沿って東西に走る総延長54.4キロの田舎道は、地元でオールドキングスハイウェイ(以下OKHと略す)と呼ばれている。古くはインディアンが切り拓いた道であったと言われており、17世紀にヨーロッパからの移民によるコロニーの建設が進む中で、いつからかそう呼ばれるようになったらしい。地形に沿って緩やかに蛇行しアップダウンするこの道を楽しむには、時速40キロ程度でゆつくりと流すのが一番よい。できればオープンカーで。

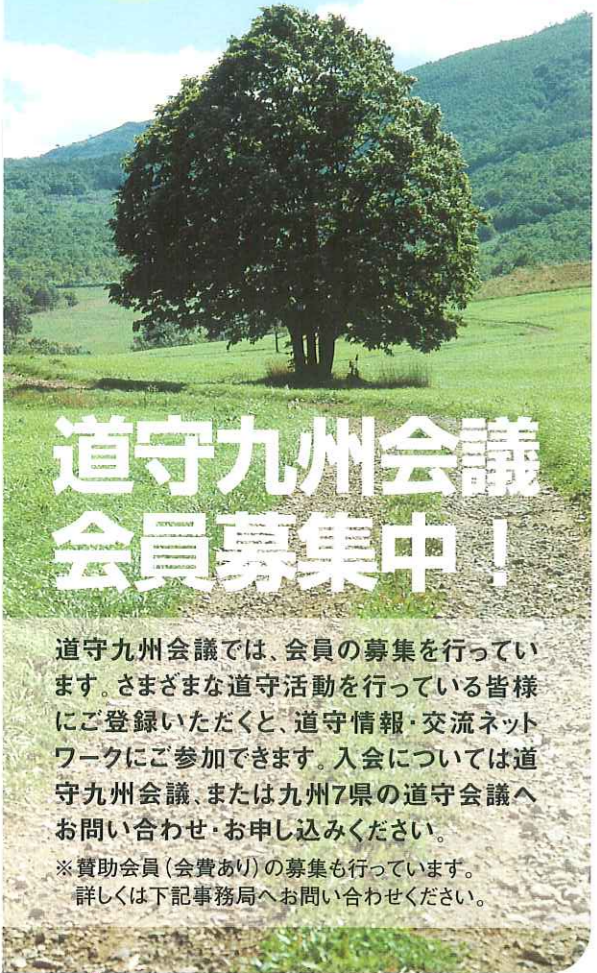
海岸や砂丘を眺めながらドライブすると、やがて巨大な街路樹が道の両側に並びだす。集落が近づいてきたサインだ。よく手入れされた歴史的建物はアンティークショップや住居として今も現役で使用されている。そうした集落の中を数世紀前と同じ有機的なラインを引いてOKHは走り抜ける。OKHを初めて走ったとき、私は建国当時のアメリカにタイムスリップしてゆく自分を感じた。

実は、この素晴らしい道の管理をめぐり、マ



九州大学大学院  
工学研究院  
准教授 樋口明彦  
平成11年まで米国東海岸で暮らす。専門は景観デザイン。

サチューセッツ州の道路部局と地元との間で、いざこざが絶えない。例えば、「通過交通の効率と安全性を高めるため、道路の直線化を進める」という、どこかで聞いたことのある話。それがOKHとまったく馴染まないことは、この道の素晴らしさを一度でも体験すればわかるはずのことと思うのだが、残念なことには、こうしたことわらない頭の固い道路エンジニアが、かの国にもいるのである。洋の東西を問わず、エンジニアが数字しか理解できない狭量な人種であるとき、風景は荒廃に向かわざるを得ないのだろう。



## 道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っています。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。

※賛助会員(会費あり)の募集も行っています。詳しくは下記事務局へお問い合わせください。

### ●入会申し込み・お問い合わせ

「道守九州会議」事務局  
(社)九州地方計画協会内  
〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-434-4389  
ホームページもご覧ください。申し込みも可能です  
道守HP <http://www.michimori.com>  
e-mail [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

### 道守通信 編集後記

今年の夏は猛暑続き。8月の道路ふれあい月間には清掃活動やイベントが目白押しでしたが、各地の道守の皆さんは暑さにも負けず道の環境美化などに邁進されたことでしょう。熊本では、大分・熊本の豊後街道125kmを歩く「参勤交代・九州横断徒歩の旅」が30周年を迎え、暑い中を子どもたちは無事歩き通してくれました。熊本城築城400年も重なって、猛暑とともにこの夏の大切な思い出です。来年はもう少し涼しくなってほしいな。(編集委員・中村幸子/道守くまもと会議代表世話人)

## あなたも九州の道を考え、守ってみませんか?

### 道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。

### 道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所等の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など

### 九州7県の 道守会議連絡先

道守ふくおか会議  
TEL.092-473-1057  
e-mail: [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)  
(道守九州会議事務局内)

道守佐賀会議  
TEL.0955-72-4791  
e-mail: [se-1-doken@karatsu.co.jp](mailto:se-1-doken@karatsu.co.jp)  
(前窪清美)

道守大分会議  
TEL.097-599-3839  
e-mail: [kinoshita@colorcreate.jp](mailto:kinoshita@colorcreate.jp)  
(カラズクリエイティブ 木ノ下結理)

道守長崎会議  
TEL.095-822-6833  
e-mail: [ofumi9152006@ybb.ne.jp](mailto:ofumi9152006@ybb.ne.jp)  
(道守長崎会議事務局)

道守くまもと会議  
TEL.096-387-6671  
e-mail: [htol213@bronze.ocn.ne.jp](mailto:htol213@bronze.ocn.ne.jp)  
(くまもとの道を語る女性の会 中村幸子)

道守みやざき会議  
TEL.0985-60-3911  
e-mail: [office@bunkahonpo.or.jp](mailto:office@bunkahonpo.or.jp)  
(NPO法人宮崎文化本舗内 石田達也)

道守かごしま会議  
TEL.099-227-5343  
e-mail: [tankenokai@hotmail.com](mailto:tankenokai@hotmail.com)  
(NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 東川隆太郎)

## 道守九州会議からのお知らせ

### 道守九州会議交流会2007 「みちつくしinふくおか」開催

12月8日(土)、9日(日)の2日間、福岡市の福岡国際会議場で道守九州会議交流会2007「みちつくしinふくおか」を開始します。参加募集など詳細については随時、道守ホームページでお知らせしていきます。道守会員の方々の多数のご参加をお待ちしています。



● <http://www.torupa.com>  
● <http://kyusyu.torupa.jp/>

対象は2008年1月31日までに投稿された全ての作品となります。ふるってご応募ください。詳しい投稿方法は「九州とるば」ホームページをご覧ください。

## 道守たちのトピックス

### 無料化で道路環境保全を

佐賀県武雄市は、市民や事業者による公園や道路のゴミ拾いなど環境保全のボランティア活動に対し、用具の無料貸し出しだけでなくゴミ袋などの消耗品も提供する「環境ボランティアサポート制度」をスタートさせた。

### 道路の美化・愛護に表彰状

福岡市は8月23日、本年度の「市道路愛護等功労者」表彰式を開いた。長年、道路の清掃や花壇の手入れ、放置自転車撤去など道路の美化、愛護活動に取り組んでいる市内の4個人3団体に、吉田宏市長が表彰状を贈った。

### 道の専門家が清掃・点検

道路標識や標示板の設置業者などをつくる県交通安全施設業協会は6月28日、県内12の土木事務所管内で道路の1斉清掃に取り組んだ。国道386号沿い約5kmにわたってゴミ拾いや標識の汚れを落とし、危険な箇所がないかの点検もした。

### 自動車道完成で時間短縮に期待

天草上島で建設が進められていた自動車専用道「松島有明道路」が完成し、9月8日に供用開始した。有明海沿岸を走る国道324号を通行する場合と比べ、所要時間6分の短縮効果を見込んでいる。

### 東九州道の早期開通を

東九州自動車道建設促進地方大会が

8月31日、大分県佐伯市で開かれ、福岡、大分、宮崎、鹿児島四県の知事・副知事や北九州市長、九経連会長が早期開通を実現するため、年内に策定される道路整備中期計画に東九州道整備を盛り込むよう求める大会決議案を採択した。

### 川開きに併せ道路美化

日田川開き観光祭を前に、5月20日に市民らは各地でボランティア清掃にあたった。今年で41回目。九州電力日田営業所など九電グループ従業員やOBら計72人は祭りの主会場となる三隈川沿いの街灯や道路を清掃。約2時間でゴミ袋約50袋が集まった。

### 徒歩でゴミ拾い県内一周

清掃活動しながら昼夜を通して歩き、福岡県内一周(約430km)を目指す日本青年会議所九州地区福岡プロジェクト協議会のメンバーが6月14日、久留米市など筑後地区に入り、道路や河川などでゴミ拾いを行った。入会3年未満の会員の研修と社会貢献を兼ねて行われている。

### 12年目に阿蘇東部線全線開通

阿蘇市波野の国道57号と高森町河原の町道大戸の日本河原線を結ぶ森林基幹道「阿蘇東部線」が着工から12年で全線開通し、8月30日、波野の阿蘇望橋隣接広場で開通式があった。総延長は約12km。

### 事故防止に イメージハンブ設置

自転車や歩行者の事故防止のため、

福岡市東区が区内5カ所にオリジナルの「イメージハンブ」を設置した。照明光を効率よく反射する「高規格反射シール」を用いており、交差点に差しかかると、手前に突起物が浮かび上がる。

### 自然ともてなしに サイクリスト集結

大分県国東半島を自転車で駆け抜ける「2007ツール・ド・国東」が5月

## 道守 人物伝

### 空き缶で沿道植栽20年



宮崎県延岡市三川内歌系  
勝浦ナミエさん(95歳)

三川内地区と古江地区を結ぶ古江トンネル出口(イヤザメ地区)を花壇で飾る。始めたのは大阪から戻った1987年。散歩や買い物ついでに、空き缶を拾っていたのがきっかけ。「空き缶をどうしようかと考えたときに、沿道に並

べて花を植えることを思い立ちました」。空き缶花壇には、高齢者ならではの工夫も。水をくみにいくのが大変なため、空き缶の口を上に向けている。

3年前には地元教育委員会が看板を提供した。「イヤザメの花壇 勝浦ナミエ私がお世話します」。ドライバーや歩行者に見てほしいという思いからだったようだ。



**P** 第3回フォトコンテスト 優秀賞作品  
「天草の真珠」 高山伊勢吉氏(福岡県)

<フォトスポット> 崎津天主堂(熊本県天草郡河浦町)から鐘展望公園へ徒歩約10分  
初秋の光がちょうど教会だけに照ったときに撮ってみました。



広報誌「道守通信」秋号  
平成19年9月30日発行

■発行「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-434-4389

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

定価 300円(消費税を含む)